

アダムとイブの罪(創世記)

- 1, 神である主は、...園の中央にいのちの木を、また善悪の知識の木を生えさせた。
 - * 教会ではこの「木」を科学的な木と捉え教えている。しかし、それを科学的に探そうとしてはいない。
 - * 私が彼らに例えて話すのは、彼らが見てはいるが見ず、...悟ることもないからです。(マタイ13:13)
 - * 木は人の生命に必要なもの、いのちの木は人の霊的 necessary の中心、善悪の木は肉の necessary の中心...

- 2, しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ。
 - * 「木」は「見るからに好ましく、食べるのに良い」。つまり、神は人にそれらへの欲求も与えた。
 - * しかし、善悪の木は食べる判断を神に従う必要があり、欲求による誘惑に対して警告が与えられた。
 - * ...罪はあなたを恋慕うが、あなたはそれを治めなければならない。(創世記4:7)

- 3, ...それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。
 - * 神が人を創造しその助け手として女を創造された。アダムは主に従いエバはアダムに従うべきだった。
 - * しかし、エバは善悪の木の誘惑に負け、アダムはエバの誘惑に負けた。二人とも神に背いたのである。

- 4, 人は、その妻エバを知った。...アダムは再び妻を知った。彼女は男の子を産み...。
 - * 「善悪を知る」と「妻を知る」は一致する。つまり生殖行為を意味する。
 - * それは、人が経験する性交の悦びや罪悪感にも一致する。

- 5, ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。...主の御顔を避けて...身を隠した。
 - * このとき人の肉の目は開かれ、霊の目(神の目に従う心)は閉じた。
 - * ふたりは神の目を離れた行動をし、自分たちが神様のご加護の外に出てしまったことに気づいた。

- 6, 見よ。人はわれわれのうちのひとりようになり、善悪を知るようになった。
 - * 人は自分の善悪に従って(神様に聞き従うことをやめて)行動するようになった。

- 7, アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。
(コリント1、15:22)
 - * 神もキリストも人の死の罪をアダム個人に負わせてはいない。すべての人をアダムで例えている。
 - * 信仰による救いはキリストによって成し遂げられたが、一人一人がそれを信じなければ救われない。
 - * 神様は、人の罪が何であるか、どうすれば救われるか、をアダムとイエスを通して教えている。

- 8, 今、人がその手を伸ばして、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きることのないようにしよう。
 - * 人が肉的な欲求の奴隷となった状態で、創造主なる神が持つ霊的な永遠の命を得るのは不可能。
 - * 神は霊的な存在。人間も神の義と愛と信仰を身に付けるよう、日々の実践と鍛錬が必要と言っている。
 - * 性交自体に死の罪があるのではない。性交が神への義や夫婦間の義を損なうこと不義不倫に罪がある。